

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年8月11日

【四半期会計期間】 第138期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）

【会社名】 東洋機械金属株式会社

【英訳名】 TOYO MACHINERY & METAL CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 片山 三太郎

【本店の所在の場所】 兵庫県明石市二見町福里字西之山523番の1

【電話番号】 (078) 942 - 2345（代表）

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 二見 泰博

【最寄りの連絡場所】 兵庫県明石市二見町福里字西之山523番の1

【電話番号】 (078) 942 - 2345（代表）

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 二見 泰博

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第137期 第1四半期 連結累計期間	第138期 第1四半期 連結累計期間	第137期
会計期間		自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 6月30日	自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 6月30日	自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日
売上高	(千円)	3,957,371	4,602,708	18,960,944
経常利益	(千円)	112,909	217,567	751,892
四半期(当期)純利益	(千円)	91,575	187,484	706,756
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	109,218	206,044	677,155
純資産額	(千円)	7,395,292	8,107,267	7,942,452
総資産額	(千円)	16,453,277	17,491,232	16,951,600
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	4.44	9.09	34.28
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	44.6	46.0	46.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第137期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

射出成形機の国内需要は、東日本大震災の影響によるサプライチェーン上の問題等により低調であり、また、生産拠点の海外シフトが加速しました。他方、海外につきましては、中国でのIT・電子機器関連の需要が堅調であり、また、欧米での医療・容器類等の需要も回復基調にありました。ダイカストマシンにつきましては、国内では需要が増加しましたが、海外では低調に推移しました。さらに、円高により輸出環境は悪化しました。この結果、受注高は前年同四半期比8.2%減の48億9千2百万円となりました。また、売上高は、前年同四半期比16.3%増の46億2百万円となりました。

従って、当第1四半期連結累計期間における損益につきましては、売上高の増加やコストの引下げ等により、営業利益2億1百万円（前年同四半期営業利益9千1百万円）、経常利益2億1千7百万円（前年同四半期経常利益1億1千2百万円）、四半期純利益1億8千7百万円（前年同四半期純利益9千1百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

（流動資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、127億1千8百万円（前連結会計年度末は120億5千2百万円）となり、6億6千5百万円増加いたしました。主な要因は、現金形及び預金の増加（18億1千8百万円から27億8千3百万円へ9億6千5百万円増）、たな卸資産の増加（35億4千2百万円から38億2千7百万円へ2億8千5百万円増）及び受取手形及び売掛金の減少（63億4千4百万円から58億9千万円へ4億5千4百万円減）であります。

（固定資産）

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、47億7千2百万円（前連結会計年度末は48億9千8百万円）となり、1億2千6百万円減少いたしました。主な要因は、減価償却等による有形固定資産の減少（43億7千4百万円から42億9千2百万円へ8千1百万円減）及び無形固定資産の減少（3億2千百万円から2億8千8百万円へ3千2百万円減）であります。

（流動負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、71億4千5百万円（前連結会計年度末は66億1千9百万円）となり、5億2千5百万円増加いたしました。主な要因は、短期借入金の増加（11億4千4百万円から17億円へ5億5千6百万円増）であります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、22億3千8百万円（前連結会計年度末は23億8千9百万円）となり、1億5千万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金から1年内返済予定の長期借入金への振替による減少（5億4千万円から4億3千5百万円へ1億4百万円減）によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、81億7百万円（前連結会計年度末は79億4千2百万円）となり、1億6千4百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加（35億3千6百万円から36億8千2百万円へ1億4千6百万円増）であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億3千4百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,703,000	20,703,000	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部	単元株式数 は100株で あります。
計	20,703,000	20,703,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年6月30日		20,703,000		2,506,512		2,028,806

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 88,200		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,591,400	205,914	同上
単元未満株式	普通株式 23,400		同上
発行済株式総数	20,703,000		
総株主の議決権		205,914	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,200株（議決権52個）含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には当社所有の自己株式32株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東洋機械金属株式会社	兵庫県明石市二見町福里字 西之山523番の1	88,200		88,200	0.43
計		88,200		88,200	0.43

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の所有株式数は88,232株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,818,227	2,783,801
受取手形及び売掛金	1 6,344,617	1 5,890,177
商品及び製品	1,888,853	1,951,270
仕掛品	1,105,951	1,309,005
原材料及び貯蔵品	547,887	567,633
その他	365,317	234,489
貸倒引当金	17,964	17,716
流動資産合計	12,052,890	12,718,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,290,976	2,263,472
機械装置及び運搬具（純額）	1,105,432	1,056,511
工具、器具及び備品（純額）	145,188	142,489
土地	814,347	814,347
リース資産（純額）	18,077	15,635
有形固定資産合計	4,374,022	4,292,457
無形固定資産	320,920	288,270
投資その他の資産		
投資有価証券	156,175	144,838
その他	89,157	88,498
貸倒引当金	41,565	41,493
投資その他の資産合計	203,767	191,843
固定資産合計	4,898,709	4,772,571
資産合計	16,951,600	17,491,232

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,145,252	4,096,543
短期借入金	2 1,144,000	2 1,700,000
1年内返済予定の長期借入金	376,000	376,000
未払費用	416,649	296,136
未払法人税等	36,608	35,271
未払消費税等	10,273	9,608
繰延税金負債	4,431	4,262
製品保証引当金	4,555	4,258
役員賞与引当金	11,100	6,250
その他	470,859	617,007
流動負債合計	6,619,730	7,145,337
固定負債		
長期借入金	540,000	435,500
繰延税金負債	327,924	324,544
退職給付引当金	1,468,951	1,436,874
その他	52,541	41,708
固定負債合計	2,389,417	2,238,626
負債合計	9,009,147	9,383,964
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,506,512	2,506,512
資本剰余金	2,028,834	2,028,834
利益剰余金	3,536,059	3,682,313
自己株式	48,187	48,187
株主資本合計	8,023,218	8,169,472
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,417	5,780
為替換算調整勘定	156,321	134,856
その他の包括利益累計額合計	141,904	129,076
少数株主持分	61,138	66,870
純資産合計	7,942,452	8,107,267
負債純資産合計	16,951,600	17,491,232

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	3,957,371	4,602,708
売上原価	3,084,559	3,510,928
売上総利益	872,811	1,091,780
販売費及び一般管理費	780,857	889,950
営業利益	91,954	201,829
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,600	1,616
固定資産賃貸料	21,280	21,280
為替差益	12,670	6,369
その他	1,575	3,501
営業外収益合計	37,126	32,767
営業外費用		
支払利息	9,010	5,990
手形売却損	1,617	2,654
固定資産除却損	75	2,028
固定資産賃貸費用	2,212	2,126
その他	3,255	4,228
営業外費用合計	16,171	17,029
経常利益	112,909	217,567
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7,919	-
特別損失合計	7,919	-
税金等調整前四半期純利益	104,990	217,567
法人税、住民税及び事業税	5,630	26,332
法人税等調整額	1,285	849
法人税等合計	4,344	25,483
少数株主損益調整前四半期純利益	100,645	192,084
少数株主利益	9,070	4,599
四半期純利益	91,575	187,484

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	100,645	192,084
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,488	8,636
為替換算調整勘定	13,061	22,597
その他の包括利益合計	8,572	13,960
四半期包括利益	109,218	206,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	98,183	200,312
少数株主に係る四半期包括利益	11,034	5,732

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
1 手形裏書譲渡高 13,476 千円	1 手形裏書譲渡高 10,744 千円
2 貸出コミットメント契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため㈱三井住友銀行ほか2行と貸出コミットメント契約を締結いたしました。当連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。	2 貸出コミットメント契約 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため㈱三井住友銀行ほか2行と貸出コミットメント契約を締結しております。当第1四半期連結会計期間末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。
貸出コミットメントの総額 2,000,000 千円	貸出コミットメントの総額 2,000,000 千円
借入実行残高 千円	借入実行残高 千円
差引額 2,000,000 千円	差引額 2,000,000 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
減価償却費	185,149千円	162,371千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年4月26日 取締役会	普通株式	41,229	2.00	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

当社グループは、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

当社グループは、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	4円44銭	9円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	91,575	187,484
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	91,575	187,484
普通株式の期中平均株式数(株)	20,615,533	20,614,768

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成23年4月26日開催の取締役会において、平成23年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	41,229千円
1株当たりの金額	2円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成23年6月24日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月11日

東洋機械金属株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 竹 伸 幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 川 佳 男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東洋機械金属株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東洋機械金属株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。